

1

自分は何も

i エ
ii ウ
iii ア

(2 完答)

「知ごり

II 謙虚

4 Y

(3 I 完答)

細
II 考える
III 本を読む行

6 A イ
B エ
C ウ
7 (記述題)
8 エ

(6 完答)

9 a 発達
b 新大陸
c 果て

2

1 a 同行
b 静まり
c 失敗

d 初めて

2 I 確実に私に
II さつきはや

3 イ
4 A イ
B ウ
C ア
5 女の子のす

(4 完答)

6 ウ
7 理子、
8 さつきの家

9 エ
10 それら

【記述題解答らん】

1

7 われわれが生きている
世界のすべてを知っている

(同意可)

配点	
19	21 各2点× 7 = 14点
17	6点
その他	各4点× 20 = 80点
100点	

- 1 本文の最後の行で同じことが述べられているので、文章をきちんと通読すれば容易だったはずである。また、①の直後の行から五行にわたって「何も知らないという自覚」がもたらす利点について述べられていることからわかる。
- 2 i 「身をもって」は「みずから直接に」、ii 「気が遠くなる」は「意識が薄れてぼうっとする」、iii 「目を通す」は「一通り見る」という意味の言葉である。
- 3 I この段落内には答えが見つからないので、自分は何でも知っている人について述べられている他の部分を探す。「おごり」とは、得意になってたかぶること、思い上がることである。
II 自分は何でも知っている人か「傲慢」なのだから、自分は何も知らないと思っている人の態度を答えれば良いとわかる。——線②を含む段落のはじめに「反対に」とあることから、まずはここより前を探す。
- 4 X Y を含む一文は、直前・直後の文や、本文の最後から四行目のCからはじまる一文から、「人は、知らないことのほうが知っていることより多い」という内容になることは容易にわかる。「物理的にも人が知りうることには限りがある」のだから、情報量が爆発的に増える際に同時に増えるのは「知らない」ことである。よって、Zには「知らない」が入る。
- 5 I ——線③の四行後に「そこ（＝ネット）で得られるのは単なる情報にすぎません」とあるので、「情報」が答えになるとわかる。あとは十字の言葉を探せばよい。
II 知識についてくわしく書かれているのはBからはじまる段落である。「そもそも知識とは……」という問いなので、「本」とは限らないということもふまえない。「考えること」によって……知識になるのです。」とあるので、ここだとわかる。
III ——線③の七行後の「読書で得たものが知識になるのは……」の一文に注目したい。この一文の最後が「……だからです」となっていることにも気づきたい。
- 6 Aの後で、本を通して知ることとネットを通して知ることの違いについて「コロンブス」の具体例をあげているので、「たとえば」が入る。Bの一文の最後が「……からです」となっているので、理由説明の働きを持つ「なぜなら」が入る。Cの前後ではどちらも「人は自分の生きている世界のほとんどを知らない」と述べられているので、言いかえの働きを持つ「つまり」が入る。
- 7 「その前提」とは、直前の『何も知らない』という前提を指している。「何も知らない」という前提が永遠に消えないのは、すべてのことを知ることが不可能だからである。また、そもそもわれわれが生きている世界はほとんど知らないことでできているのだから、ますます知ることが不可能と言えるのである。
- 8 「ここ」での意味を問われていることに注意したい。身長が伸びる、体重が増えるというような外面的な「成長」ではなく、精神面が成熟する内面的な「成長」や、他人との関係など、社会生活を重視しようとする社会的な「成長」を指しているのである。「器」とは「いれもの」という意味だけでなく、「人物の大きさ」という意味ももつ。
- 9 a 「発達」の「達」は、しんによるはもろんのこと、それ以外の部分も正しく書こう。「土」に「羊」である。b 「新大陸」はどの漢字もむずかしいものではない。トメ・ハネを意識して書いてほしい。c 「果て」の「果」は、「田」に「木」ではない。「日」↓横棒↓縦棒↓左右のはらい、という順である。
- 1 2 a 「同行」は「共に行くこと、付きそうこと」である。b 「静まり」の「静」は、右側の「争」の形を正しく書こう。c 「失敗」の「失」を「矢」と書かないようにしよう。d 「初めて」の「初」は「ころもへん」である。「ネ」としてはいけない。
- 2 I 直前に「加えて」とあるので、——線①の二行前の「まさか、という思い」と——線①は、どちらもさつきから電話を受けた時の思いだとわかる。⑥の二行後から四行にわたって、さつきから電話を受けた時の理子の心のうちが描かれている。
II この場面を通しての理子の行動を読み取ってほしい。心情が行動につながっているのである。さつきがジャンプをやめることに対して納得できず、何とかしようとしていることから考えよう。
- 3 理子がさつきのことを考えている時に、遠藤コーチの口からさつきの名が出てきたのである。ウは「ジャンプをやめる原因は自分にある」の部分がおかしい。さつきの母親が反対したことが、さつきがジャンプをやめる原因である。
- 4 AとBでなやんだかもしれない。Bは、さつきの母親の気持ちをわからなくもない永井コーチがさつきにやめてほしくない理子からの問いかけに「……難しいね」と答えることしかできない様子を表しているのだから、なやんでいる様子を表すウがふさわしい。また、「腕を組む」という表現から、考えこんでいる姿を思いうかべてほしい。そしてAには、さつきがジャンプをやめさせられることに対して「残念ながらそれとおおり」と言っているのが、がっかりしている様子を表すイがふさわしい。「消沈」という言葉が知らなくても漢字からイメージを作ってほしい。
- 5 「固定観念を持った人」とは、さつきの母親である。「固定観念」とは、「思いこんだままの考え」なので、さつきの母親がジャンプに対してそもそもどんな風に思っていたのか書かれている部分を探す。——線③の三行前からの永井コーチの発言に注目しよう。
- 6 ——線④の直前の永井コーチの発言から、永井コーチはさつきがやめることについて仕方がないと思っていることがわかる。それに対して理子は「それでいいと思うんですか」と言っていることから、さつきがやめることに対して、いいと思っていないことがわかるだろう。また、コーチの発言に対して反論していることから、コーチの発言に対しても不満をもっているとわかるだろう。
- 7 ——線⑤の直前の一文から、さつきからの電話が「ジャンプをやめたくない」という内容だったとわかる。——線②の七行後に「電話を受けたとき」と書かれていることも手がかりとなる。「ひと続きの二文」という条件にも注意しよう。
- 8 この後、理子は走ってどこに向かったのか。さつきの家の場所を頭に呼び起こし、そちらの方面へ向かうバスに飛び乗っていることから、さつきの家に向かったとしか考えられない。さつきをやめさせないために説得に向かったのだろう。
- 9 「私はもっと、遠くへ飛んでみせる」とあるので、理子自身に対しての決意であることはわかるだろう。また、——線⑦の五行前の「追いかけてくるなら、それでいい。どんどん脅かせばいい」という理子の心の声から、同じ世界で戦い続けること、追いかける立場をゆずる気など全くないことが読み取れる。
- 10 「体育館の扉が開く音と、圭介の声も続いて聞こえた」から、この直前にも何か聞こえたことがわかる。⑥の次の行に、「永井コーチの制止の声が届いた」「それらを振り切り」とあるので、この二文のあいだに戻るのが良い。以上